

JAPRS

JUN.2023 No.2
初夏号

一般社団法人 日本音楽スタジオ協会

目 次

令和5年度・JAPRS行動指針について	1
「インボイス制度に関する勉強会」実施報告	3
第19回スタジオ見学会「Bunkamura Studio」	4
第29回プロ録音楽録音賞に向けて	12
会員動向	14
経済構造実態調査へのご協力をお願い	16

令和5年度・JAPRS 行動指針について

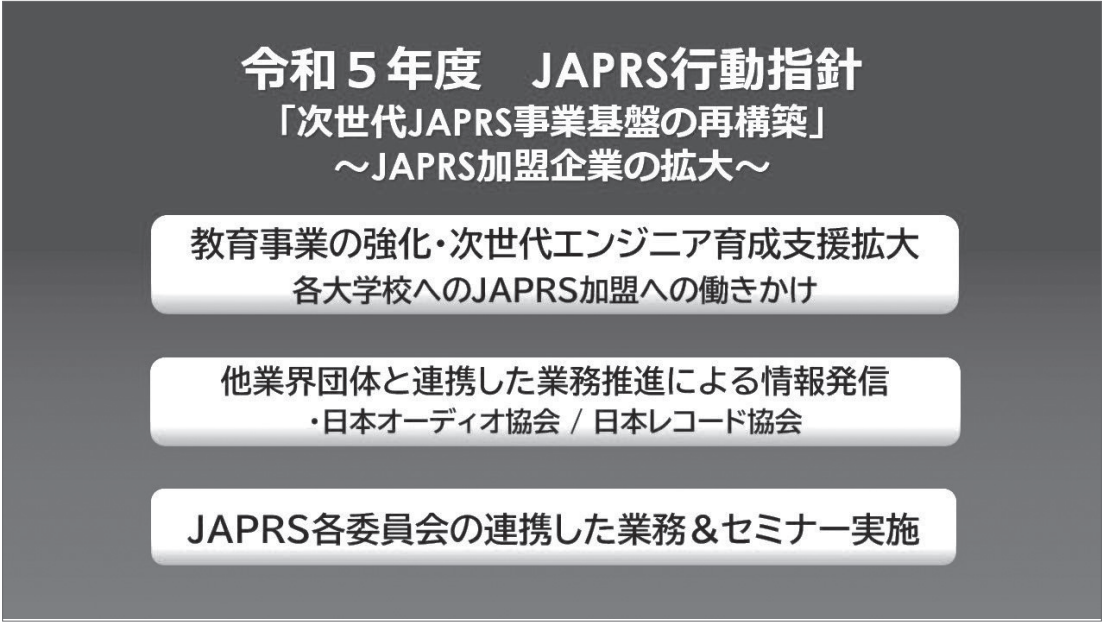
(一社) 日本音楽スタジオ協会
会長 高田 英男

今年の3月にJAPRS賛助会員のメディア・インテグレーション及び日本工学院専門学校の協力によって開催された“Jonathan Wyner氏マスタリング・エンジニアセミナー「革新的技術は如何にクリエイティブな可能性を切り開くか」”に参加し、デジタル技術（AI機能）をどの様に音創りに活用するかなど、AI技術を使った音創りへの哲学的な考えを伺い、自身の感性が大変刺激されました。

JAPRS技術セミナーにおいてもAIマスタリングセミナーを行い、AIによる音創りの提案に「なるほど・・・」と感じ、AI提案のサウンドをベースに、エンジニア自身の技術・感性で音楽をより魅力的に表現する音創りへの可能性を感じています。現状ChatGPTによる対話形式でAIが質問に答えるAI技術の進化について色々論争されていますが、物事を進める上で大切な事は、自分自身（人間）がテーマに対し行動をする時に、如何に目標設定（コンセプト）と手段（プロセス）を明確にし、行動する事の重要性を改めて再認識しております。

動画配信による年頭の会長挨拶において令和5年度JAPRS行動指針をお伝えしましたが、会報紙面をお借りして改めてお伝えさせていただきます。

令和5年度 JAPRS 行動指針 「次世代JAPRS事業基盤の再構築～JAPRS加盟企業の拡大」



令和5年度 JAPRS行動指針
「次世代JAPRS事業基盤の再構築」
～JAPRS加盟企業の拡大～

- 教育事業の強化・次世代エンジニア育成支援拡大
各大学校へのJAPRS加盟への働きかけ
- 他業界団体と連携した業務推進による情報発信
・日本オーディオ協会 / 日本レコード協会
- JAPRS各委員会の連携した業務&セミナー実施

1. 教育事業の強化

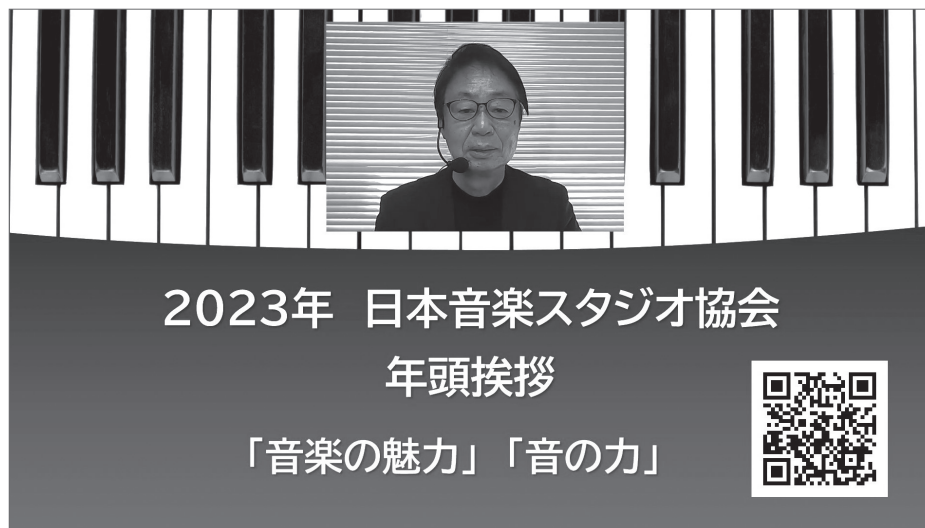
- ・次世代エンジニア育成支援の拡大～強化。
- *各大学校へのJAPRS加盟への働きかけ。（賛助委員会の協力）
- *各大学校学生に対し次世代エンジニア育成へのセミナー等の仕組み創り（専門学校委員会の協力）

2. 他業界団体と連携した業務推進による情報発信

- ・日本オーディオ協会との連携
- ＊ OTOTEN2023 JAPRS 技術セミナー
- ＊日本プロ音楽録音賞授賞式の連携 神田スクエアホール
(学生録音コンテスト受賞者へプロ録受賞作品の試聴～コミュニケーション)
- ・日本レコード協会との連携
- ＊情報技術連絡会の開催（技術委員会との連携）

3. JAPRS 各委員会の連携した業務 & セミナー実施

- ・総務委員会・賛助委員会連携による JAPRS 会員の懇親会について
- ・渉外委員会・技術委員会・賛助委員会連携による JAPRS 技術セミナー



「令和4年度事業計画実行推移～令和5年 JAPRS 行動指針」
YouTube にて動画配信しています。

「インボイス制度に関する勉強会」実施報告

令和5年10月から始まる消費税インボイス制度の対応準備として、財務省より講師派遣をいただき「インボイス制度に関する勉強会」を下記の通り実施しました。

日 時 : 令和5年3月16日(木) 14時30分～15時50分
※YouTubeによる同時配信を実施

会 場 : 東放学園音響専門学校 清水橋校舎 2S1教室

講 師 : 財務省主税局 税制第二課 消費税第二係 澤島 亮氏



勉強会の様子@東放学園音響専門学校2S1教室

適格請求書等保存方式（インボイス制度）について

○ 適格請求書等保存方式（インボイス制度）
複加税率下において適正な課税を確保する観点から導入される、仕入税額控除制度

★適格請求書（インボイス）⇒ 売り手が、買い手に対し、正確な適用税率や消費税額等を伝える手段

【現行の区分記載請求書等保存方式】
※ インボイス制度までの4年間における暫定的な仕入税額控除方式
～2023年9月

【イメージ】

請求書	備考欄
●年■月分 請求金額 43,600円	
■月1日 割りばし 550円	
■月3日 牛 肉 ※ 5,400円	
合 計 43,600円	
(10%対象 22,000円)	
(8%対象 21,600円)	
※は軽減税率対象	

【記載事項】

- ① 請求書発行者の氏名又は名称
- ② 取引年月日
- ③ 取引の内容
- ④ 税率ごとに区分して合計した対価の額（税込）
- ⑤ 軽減税率の対象品目である旨
- ⑥ 請求書受領者の氏名又は名称

（ポイント）

- ・ 受領した請求書に④・⑤の事項がなければ自ら「追記」が可能
- ・ 免税事業者でも発行可能
- ・ 区分記載請求書の「交付義務」はない

【適格請求書等保存方式（インボイス制度）】
2023年10月～

【イメージ】

請求書	備考欄
●年■月分 請求金額 43,600円	備考欄 (T1234...)
■月1日 割りばし 550円	
■月3日 牛 肉 ※ 5,400円	
合 計 43,600円	
10%対象 22,000円 内税 2,000円	
8%対象 21,600円 内税 1,600円	
※は軽減税率対象	

【記載事項】
区分記載請求書に以下の事項が追加されたもの

- ① 登録番号
《課税事業者のみ登録可》
- ② 適用税率
- ③ 消費税額

（ポイント）

- ・ 交付するインボイスは、これまでの請求書や領収書に記載事項を追加するイメージ（受領者による「追記」は不可）
- ・ 免税事業者は発行不可（発行するには課税事業者となり税務署長に登録を要する必要がある）
- ・ 登録した事業者は、買い手の求めに応じてインボイス交付義務・写しの保存義務が発生

3



※「インボイス制度に関する勉強会」アーカイブ動画はYouTubeにてご覧いただけます。
<https://youtu.be/fwugltvdsVI>

第19回スタジオ見学会「Bunkamura Studio」

賛助委員会主催 第19回スタジオ見学会「Bunkamura Studio」が4月6日(木)に開催されました。(※ 初夏号に掲載したスタジオ見学会の回数に誤りがありました。正しくは、第17回「音響ハウス」、第18回「サウンド・シティ」となります。訂正してお詫び申し上げます。)

音楽・美術・映像の複合施設 Bunkamura に位置し、同施設内のオーチャードホール、シアターコクーンとのダイレクトリンクが可能な1989年設立の Bunkamura Studio。誠に残念ながら2023年4月からの東京渋谷・Bunkamura 長期休館に伴い、Bunkamura Studio はおよそ四半世紀にわたるその歴史に幕を閉じることとなりました。今回のスタジオ見学会では Bunkamura Studio の歴史と、多くの方々に高い支持を得続けてきたスタジオのサウンドを体験いただく見学会となりました。

今回の会報では、株式会社バーディハウス代表取締役 伊藤 猛氏から見学会の冒頭で語られました Bunkamura Studio のお話と、スタジオ見学会に参加された方々の感想を掲載させていただき、スタジオの閉鎖を名残惜しいと思います。



岡田 賛助委員長

I. ご挨拶 ～ Bunkamura Studio について

伊藤 猛氏 (株式会社バーディハウス 代表取締役)

II. スタジオ体験 (各スタジオの見学および音源試聴など)

「Bunkamura Studio」について

株式会社バーディハウス 代表取締役 伊藤 猛氏

この“Bunkamura Studio”は出来てから35年程になります。1989年9月3日が正式オープンとなっており、Bunkamura 施設内にあるオーチャードホールで開催されたワーグナーこけら落としで全館一斉にオープンしたのですが、スタジオ自体はその半年程前に出来上がっていました。スタジオの計画は1986年頃に持ち上がったのですが、どんなスタジオにしようか迷っており、それまで色んなスタジオを使って来たのですが、一からスタジオを作って運営をするということは初めてだったので、何がどうなるか分からない状態でした。まずは、海外でのレコーディング等や色んなスタジオを見学した経験から“こう言ったスタジオが良いなあ”と感じて来たことを具体化しようと、計画に着手しましたが、その時一番参考にしたのは、イギリスにあるビートルズが使用していたことで知られるアビーロードスタジオで、プロデューサーのジョージ・マーティン氏の意見やノウハウを生かしています。この Bunkamura Studio の少し後に作った“ファンハウス札幌スタジオ”にもジョージ・



(株)バーディハウス
伊藤 猛 代表取締役



メインスタジオ

マーティン氏の意見を取り入れていきますし、そのオープンの際にはジョージ・マーティン氏が実際にスタジオを訪れ見学もしていただきました。

なぜジョージ・マーティン氏の意見を取り入れようと考えたかと言いますと、それはロンドンのアビーロードスタジオを訪れた時のエピソードに始まります。アビーロードスタジオと言えばビートルズがレコーディングに使用したスタジオとして有名ですが、何年も経った今でもまだ、スタジオ前の横断歩道で記念撮影をしたり、スタジオの塀の白い壁部分に自分の足跡を残そうと隙間なく多くの落書きがされています。「その落書きはどうするんですか？」と聞いたところ、年に一度白く塗り直すという事でしたが、ビートルズがレコーディングしたというだけで、そのスタジオが世界的にも業界的にも有名になっている事実が大きく関わっています。

日本ビートルズファンは、イギリスに行けばビートルズ発祥の地“リバプール”へ車で移動し、ストロベリーフィールズやペニーレーンなど曲にまつわる場所を訪ねて写真を撮ったりしているように、そこは単なる町ではなく、アーティスト由来の付加価値を持った町となっています。アビーロードの地下鉄の駅にはビートルズのグッズを置いたセクションがありますし、リバプールにもそういうビートルズに関わるお店が沢山あったりして、ビートルズのお陰でそういった付加価値のある場所として成り立っています。そこで、スタジオ計画時に考えたことは、それらと同じような付加価値を得るために、まずは良いアーティストに使ってもらえることが大事で、イメージ通りの楽曲が作り上げられるスタジオを目指して計画を行いました。そこで、そんな付加価値のあるスタジオに深くかかわったジョージ・マーティン氏の意見を取り入れることにしました。

昔は1枚のアルバムを作るには1か月、場合によっては2〜3ヵ月掛かりましたが、そんな長期に渡るレコーディングでも、この場所に来れば心地よい環境で過ごすことが出来るスタジオ環境を作ろうと考え、ここで一番お金を掛けたのは、きれいな空気を提供出来るようにすることで、このスタジオメインフロアと同じ位の大きさの空調設備を設けることとなりました。

また、スタジオとして使用出来るスペースは建物計画で決まっておりましたので、「最大のものより最高のもの」を目指していろいろ計画を進めて行きました。

その頃のレコーディングは急速に変化していて、アナログの24chからデジタルの24chへ移行し、そしてまさにデジタル48chが登場した時期で、まだ流行るかどうか分からない中、全室デジタル48chのレコーダーを導入しました。



A スタジオ コントロールルーム



B スタジオ コントロールルーム



C スタジオ コントロールルーム



C スタジオ ブース

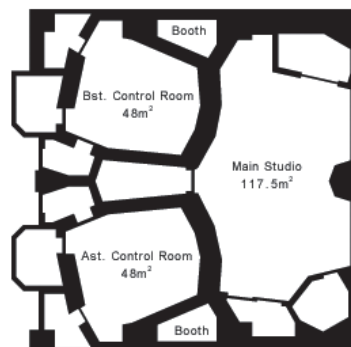
またコンピュータの進歩により、色んな事が出来るようになって来た頃でもあり、これからはコンピュータで何でも出来るようになり、スタジオは必要なくなるんじゃないか、広いスタジオ空間は作らなくともコントロールルームがあれば完結するんじゃないかという発想もあり、1スタジオに対し2の同じ形のコントロールルームという設計としました。(今となっては少し早過ぎたかなという感もありますが。) レコーディングから歌ダビング等の作業を行ったら、その後は編集やミックスダウンで、そのままのコントロールのみを使用し、スタジオともう一つのコントロールルームで、別のクライアントによる新しいレコーディングがスタート出来るように効率よく使おうと言う発想でした。アビーロードスタジオでもこれと同じような発想で作られたスタジオが一カ所ありますが、その発想をジョージ・マーティン氏も良いと推薦してくれました。そして、日東紡音響エンジニアリング(現:日本音響エンジニアリング)の茂田氏が、頭を捻ってこういう形のスタジオを実現してくれましたわけです。

そしてこのスタジオの特色として挙げられるのが、プレーヤーの待機、アーティストの創作作業や打ち合わせが出来る「アンテルーム (anteroom)」が各スタジオに一つずつ設けられていることです。これもジョージ・マーティン氏の発想で、アビーロードスタジオでも同じ名称の部屋が用意されています。その頃日本では各スタジオに「アンテルーム」を用意するという考え方はなく、いくつかの箱を持つスタジオでも大きな共通のロビーが待機場所となっていて、時間になったら各スタジオへ入っていくというのが通常で、各スタジオを使用するアーティストの相性なども懸念材料となっていました。今では多くのスタジオで呼び名は違えども用意されるようになりましたが、日本での発祥はこのスタジオだったと思います。

そしてこのスタジオは木をふんだんに使用しています。ここで使用されている木材は北海道のエゾ松で、硬い材質で響きが良いと言われています。そして、壁に設置されている板の隙間はランダムで、様々な周波数帯を均一に吸音し、フラットな帯域で音の反射が出来るように設計されています。これがこの部屋の音響効果に大きく影響しています。その後演奏やレコーディングをして行く中で、木の数を増やしたり減らしたりを繰り返して調整をして、現在の状態となっています。それらの調整や木の乾燥具合も変わって来ておりますので現在の詳細は分かりませんが、スタジオ創立当時は残響時間は1.2秒で設計しておりました。

そして、コクーンやオーチャードホールと回線が繋がっていて、いつでもライブレコーディングに対応出来るようになっています。

このスタジオは一週間後には無くなってしまいますので、皆さんご自由に見学ください。



1スタジオ 2コントロールルームの配置



各スタジオに設けられたアンテルーム



壁面にふんだんに使用された木材

スタジオ見学会「Bunkamura Studio」参加者からのメッセージ

4月に閉鎖してしまう「Bunkamura Studio」に向けて、参加された皆様からのレポートや感想を、掲載させていただきます。ご協力ありがとうございました。

(掲載は順不同となります。)

○日本音響エンジニアリング株式会社 崎山 安洋さん

東急百貨店本店の閉店とその跡地再開発事業が発表された数年前、隣接する複合文化施設「Bunkamura」はどのようなのだろうかと思った。地下にある「Bunkamura Studio」がどのようなのかも、最初のころは不明であった。時が経ちスタジオは閉鎖と聞き衝撃があった。

JAPRS スタジオ見学会の第一回は「Bunkamura Studio」であったが、伊藤社長との事前打合せを思い出す。最後の見納めとなった見学会で、改めてスタジオを見ると、とても綺麗に使って戴いていることが良く判る。33年以上経ったスタジオとは思えない美観である。

1 Studio 2 Control Room、各スタジオにアンテールームが付帯するなどの特徴もあるが、スタジオに入るなり天然木をふんだん使った空間は、やはりホッとする安らかさも感じられ、落ち着きのある自然な響きに聴こえる。弊社では1989年9月オープンの「Bunkamura Studio」に続き、「ファンハウス札幌スタジオ」(1993年8月竣工)、「ファンハウス本社内の講堂/スタジオ」(1993年11月竣工)を造らせていただいたが、共通して天然木がふんだんに使われたスタジオで、札幌スタジオには北海道産の石も使われていた。天井の高い大きな空間に天然木をふんだんに使ったスタジオを造ることは、今後は難しいのかもしれないと思えてくる。そう考えると、「Bunkamura Studio」が閉鎖されてしまうことは、よけいに惜しまれる。



アーティストが音楽制作に没頭し創作意欲が高まる快適な空間、作品の音楽イメージを充分に表現できる音空間、それを精度よく録りこむ機材。「Bunkamura Studio」の理念は、これからも記憶の中に深く刻まれていくことでしょう。ありがとうございました。

○株式会社ミキサーズラボ 高田 英男さん

伊藤 猛さんがスタジオ見学の挨拶で、Bunkamura Studio 立上げに対し「スタジオの価値」を高める為にアーティスト（ミュージシャン）の創作力が広がるスタジオ創りについてお話され、更に Bunkamura Studio で録音するとヒットするんだよ！と言われる事を目指し、木材の材質に拘り独特のスタジオ響きを創作し、お客様がリラックス出来るクライアントスペースをスタジオに併設するなど、当時の時代を常に先駆けしたスタジオ創りのお話をされていた。

特に感動した事は「このスタジオは空気が最高に綺麗なスタジオです」目に見えないスペースに特別な大型空調システムを導入し、都心のど真ん中ですが最高に綺麗な空気をお客様に提供されていた話は本当に凄い事だなと感じました。色々な都合



で Bunkamura Studio が閉鎖になりましたが、プロ録音スタジオとして本当に大切な何かを感じた見学会でした。

○東京スクールオブミュージック専門学校 渋谷 池村 雅彦さん

自分が録音で BunkamuraStudio を使用したことは多分無かったのですが、マスタリングの方は昔お世話になりました。

こんな素晴らしいスタジオが無くなるなんて本当に残念です。私がいた一口坂スタジオ等と同様、形のあるスタジオは無くなりますが、そこで創られた形の無い素晴らしい音楽は永遠に残ると思います。

○匿名希望

数々の名曲が生まれた Bunkamura Studio を見学できて、とても光栄でした。

仕事でロビーまでは入ったことがありましたが、スタジオ各所をじっくり見学させていただきとても楽しい気持ちと同時に、閉鎖してしまうことへの悲しみも湧いてきました。

Abbey Road スタジオを参考にしたという 1 Booth 2 Control Room という設計も、とても理にかなっていると思いました。

コントロールルームの SSL4000G をはじめ、さまざまな機器がとても綺麗な状態で、エンジニアの皆さんがとても丁寧にスタジオ機器を使われていたと感じました。

閉鎖されてしまうのはとても残念ですが、長年にわたり素晴らしい音楽を誕生させてきたスタジオに感謝の気持ちでいっぱいです。

○株式会社メディア・インテグレーション 伊部 友博さん

優れた空調設備と木の温もりで、とても清々しい空間でした。シンメトリーになっている2つのコントロールルームは広々として、スタジオコンソールとアウトボードまでもが同じ機材で揃えられており、そのコンセプトに感動しました。ラージスピーカーの素晴らしいサウンドを浴びて、音楽を楽しむには十分な空気の層が必要だということを、改めて体感させて頂きました。

この度は大変貴重な体験を有難うございました！

○国際音楽・ダンス・エンタテインメント専門学校 中野 和音さん

Bunkamura Studio の見学会に参加させていただきありがとうございました。

実際にレコーディングスタジオを間近で見学させていただく機会はそうそうなく、とても貴重な機会となりました。はじめに伊藤社長より Bunkamura Studio の歴史をお話いただき、設立された経緯・思いなどに非常に感銘を受けました。これだけ素晴らしい施設で、多くのエンジニアやアーティストの思いが詰まった場所が惜しまれながら Close となることも、残念でなりません。

ですが、この場所で生まれた音楽は今後も世の中で広まり続けていくということも、また音楽の良いところなんだと思います。

個人的には今回の見学会で、バーディハウスで働く卒業生にも会えたこと、また会社の方からも良くしていただいている場面を見られたことも、非常にうれしい一面でありました。

素敵な機会をいただき、本当にありがとうございました。



○株式会社キング関口台スタジオ 高橋 邦明さん

スタジオ見学会「Bunkamura Studio」へ参加させて頂き、ありがとうございます。

伊藤 猛様のお話を伺い、あらためて「Bunkamura Studio」の素晴らしさをとても感じました。

北海道産の木材をふんだんに使用し、響きに拘ったスタジオ。アンテルームをはじめとするアーティストに寄り添ったスタジオ。そして、設立当初からそのスタジオコンセプトを維持し続けてきた「Bunkamura Studio」をこれからも音楽スタジオ業界の道標として、この大切な記憶・記録を次の世代へ伝えていかなければと強く思います。

○株式会社青葉台スタジオ 浅川 真弓子さん

歴史あるスタジオが幕を閉じることになったことはとても残念でなりません。

時代の流れは時に残酷なまでに呆気なく歴史を途絶えさせるものだと痛感しました。

Bunkamura Studio さんの軌跡を伊藤さんの語りでお伺いすることが出来まして、弊社も今年で 35 周年を迎えるにあたり、その歴史と重ね合わせながら拝聴しておりましたので、とても感慨深いものがございました。

ですが、スタジオが無くなった後も、Bunkamura さんで生まれた素晴らしい楽曲達はこれからも歴史を紡いでいくのだと思うと、そのイズムは永遠に生き続けるのだと思います。

弊社も引き続き、後世に残るような素敵な音楽を皆様に作り出していただけるようなレーコーディングスタジオであるよう邁進していきたいと、改めて身が引き締まった思いです。

この度は貴重な見学会を企画して下さい、Bunkamura Studio の方々、JAPRS スタッフの皆様、誠にありがとうございました。

○株式会社スタジオイクイメント 酒井 亮輔さん

30 年以上前に諸先輩方が作り上げた Bunkamura Studio、私は今回の見学会が実物を見る最初で最後の機会となってしまいました、とても贅沢で貴重な時間を過ごさせていただきました。

Bunkamura Studio 創設の際に伊藤さんが込めた想いや、他のスタジオではない 1 つのブースに 2 つの C/R がある設計の意図、実際に運営されながらアーティストの方々の中でも特別な空間として完成されていったという話など、様々なお話を聞くことができました。

今は Bunkamura Studio ほどの贅沢なスタジオを作ることは難しい時代かとは思いますが、自分もこのような素晴らしいスタジオを作れる人間になれるように精進していきたいと、改めて思いました。

この度は貴重なお時間を頂きまして誠にありがとうございました。

○オタリテック株式会社 兼本 吉彬さん

新人の頃からお世話になっておりました。

機材デモの際にはいつも暖かく迎え入れていただき、皆様から貴重なご意見をいただき感謝しかありません。

今までの素敵な作品の数々、忘れません！

○株式会社エムアイセブン 三橋 武さん

数々の名録音が生み出された、素敵な素敵な Bunkamura Studio。

色々な理由により、この度店じまいとのこと…大変残念です…。

スタジオ見学会では、スタジオ設立のコンセプトや、使用している木材の話や、特に、アビーロードスタジオのコンセプトを受け継いでいること、北海道の木材をふんだんに使っていること（特にスタジオの壁の木材のディフューズ機構が美しかったです！）、アンテルームという概念を日本で初めて採用したことなど、大変興味深いお話をたっぷりお聞きすることができ、とても幸せでした。

株式会社バーディハウスの伊藤さま、そして Bunkamura Studio を最後に体験するこの素敵な機会を作っていただいた JAPRS のみなさまに、心より感謝いたします。



○稲葉建設株式会社 谷口 仁美さん

初めて足を踏み入れた時、ここはスタジオなのか？美術館ではないのか？とポカンと口を開けたまま空間を見渡しました。空間的にも素材的にもこれだけ贅沢なスタジオを私は見たことがありません。

竣工から何十年もの月日が流れているというのに、寂れた様子は全く感じられず、それどころか、その月日によって木材に命が宿って特別な存在感を放っているかの様でした。

音響的な事は、正直分かりません。しかし建築家として素晴らしいその空間に心躍ったのは確かです。今はもう、その空間に身を置く事が出来ないのかと思うと残念でなりません。

スタジオ作りに関わる者として、この時感じた事をエッセンスとしてちりばめられるよう尽力していきます。ありがとうございました。

○株式会社サウンドインスタジオ 吉川 直輝さん

私自身 Bunkamura Studio を訪れるのは初めてであり、スタジオをクローズされるとのことで、Bunkamura Studio の見学は最初で最後の機会でした。

そんな貴重な体験の中で、スタジオの歴史から構造、様々なこだわりまで説明いただき、とても有意義な見学会でした。特に、天然木を多く使用したことや空調設備の充実、アンテルームの設置など、居心地の良さへのこだわりが印象的でした。

スタジオクローズ直前の見学会でしたが、スタジオそのものや機材、備品がとても綺麗な状態に保たれており、長い歴史と共に、様々な人々に愛されているスタジオであると改めて認識し、クローズが大変名残惜しく感じました。

最後に、スタジオ概要や歴史について解説いただいた伊藤様、今回の見学会を開催していただいた関係者の方々に感謝申し上げます。

○日本音響エンジニアリング株式会社 重富 千佳子さん

Bunkamura Studio ができるまでの経緯や、スタジオ構築に携わった皆様のお話を伺うことができとても有意義な時間になりました。

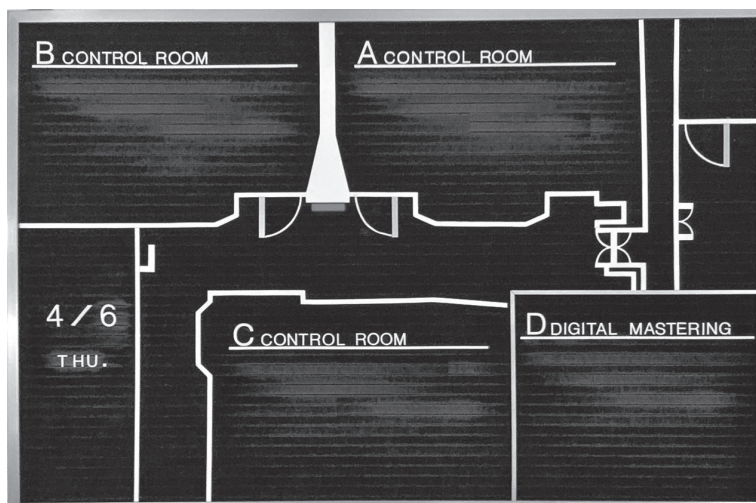
ふんだんに木材が使われた温かみのあるスタジオには、これまでスタジオを利用されたアーティストやエンジニアの皆様の想いが詰まっているように感じられ、なくなってしまうことがとても惜しまれます。

今回は貴重な機会に立ち会わせていただきありがとうございました。

以上

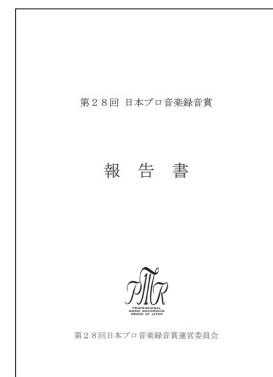
今回のスタジオ見学会を開催するにあたり、伊藤 猛様始め Bunkamura Studio に関わられたバーディハウス・スタッフ皆様のご協力に感謝いたします。

Bunkamura Studio で制作された音楽や思い出は、間違いなく残り続けて行きます。

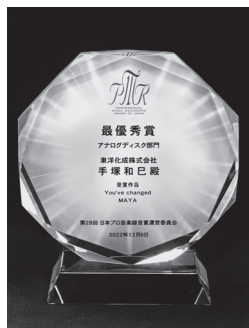


第29回日本プロ音楽録音賞に向けて

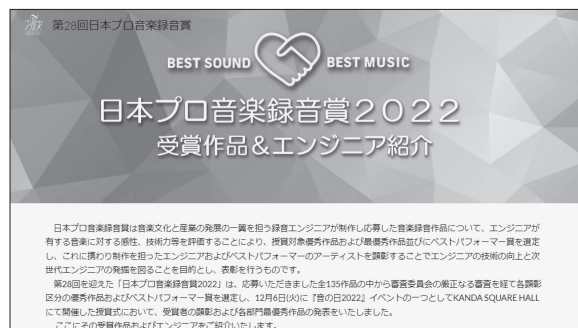
JAPRS 会報 2023 年新春号でもご報告しましたが「第28回日本プロ音楽録音賞」につきましては、新型コロナウイルス感染症への配慮をしながらの運営を行い、昨年12月6日(火)に一般社団法人日本オーディオ協会が主催するイベント「音の日2022」の一環として東京千代田区 KANDA SQUARE HALL にて授賞式を開催いたしました。そして3月1日に報告書を発行し、運営委員会におきまして実施内容の報告および総括、次回開催に向けての課題検討を行いました。



表彰状



表彰楯



受賞エンジニア & 作品紹介ページ

昨年は一般社団法人日本オーディオ協会と連携し、OTOTEN 2022における専門学校生向けのセミナーを始め、日本プロ音楽録音賞授賞式においても「学生の制作する音楽録音作品コンテスト」表彰式と同会場での開催で、学生がプロのエンジニアによる受賞作品を試聴する機会や交流の場を作るなど、人材育成を絡めた働き掛けを意識して参りました。

そして、今年度におきましては、一般社団法人 授業目的公衆送信補償金等管理協会が実施している共通目的事業としての助成を受ける形での運営が決定しました。

今回の助成申請におきましては、「日本プロ音楽録音賞の意義」として下記の通り示させていただきます。

* * * 日本プロ音楽録音賞の意義 * * *

デジタル技術の進化により誰もが自宅等でコンピュータを使用した音楽制作が出来、自ら発信出来る時代となっておりますが、音楽制作の基本として、楽曲をどのようなサウンドで表現するかなどプロのサウンドクリエイターとしてのエンジニア力は、日本の音楽文化を向上するための重要ポイントと考えております。

今回の事業を推し進めることによる具体的な権利者団体への利益としては下記の2点が挙げられます。

- ①楽曲を如何に魅力的な音として作り上げるかは、その作品の訴求力向上につながり音楽ビジネス発展にも大きな影響がある。
- ②次世代エンジニアの育成は、音楽録音文化の向上そして日本の音楽録音スタジオ事業にとって大変重要課題であり、日本プロ音楽録音賞を魅力のある賞として継続していくことが、若手エンジニアのモチベーションとなり育成にも繋がる。

以上

上記の通り、より一層人材育成を意識した開催を進める予定としており、授業目的公衆送信補償金制度の周知拡大を絡めた形で、レコーディングエンジニアという仕事についても広く認知されるような日本プロ音楽録音賞の開催に努めて参りますので、よろしくお願い申し上げます。

第 29 回日本プロ音楽録音賞は「一般社団法人 授業目的公衆送信補償金等管理協会」の共通目的事業・助成事業として開催されます。

「授業目的公衆送信補償金制度」の周知、ご理解をよろしくお願い申し上げます。

(<https://sartras.or.jp/seido/>)



共通目的事業・助成事業



会 員 動 向

1. 会員数（令和5年6月1日現在）

正会員（法人）	20 法人	準会員	1 法人
正会員（個人）	13 人		
賛助会員Ⅰ	42 法人	賛助会員Ⅱ	2 法人

2. 入会

①法人正会員

○株式会社エグジット音楽出版

令和5年3月1日

3. 法人・会員代表者および住所変更、その他

①法人正会員

○法人代表者変更

日本コロムビア株式会社

（旧）阿部 三代松

（新）土門 義隆

②賛助会員Ⅰ

○法人代表者変更

専門学校東京ビジュアルアーツ

（旧）篠田 真千

（新）清水 禎徳

○法人代表者変更

専門学校名古屋ビジュアルアーツ

（旧）清水 禎徳

（新）南野 想

○会員代表者変更

専門学校 ESP エンタテインメント福岡

（旧）玉川 伊織

（新）内藤 志帆

○会員代表者変更

仙台スクールオブミュージック&ダンス専門学校

（旧）佐久間 康明

（新）水島 秀樹

○会員代表者変更

専門学校東京ビジュアルアーツ

(旧) 五十嵐 貴之

(新) 平野 周吾

○会員代表者変更

専門学校札幌ビジュアルアーツ

(旧) 高橋 賢

(新) 小松 哲太郎

4. その他

○事務局移転

一般社団法人日本シンセサイザープロフェッショナルアーツ

(新住所) 〒107-0062 東京都港区南青山 2-2-15 Win Aoyama ビル UCF635

TEL: 03-5776-3797

経済構造実態調査へのご協力をお願い

総務省・経済産業省では、令和5年6月に全ての事業所・企業を対象とした「経済構造実態調査」を実施いたします。

この調査は、統計法（平成19年法律第53号）に基づき実施する国の重要な統計調査（基幹統計調査）であり、報告の義務があります。

ご回答いただいた調査内容は統計法に基づき、厳重に保護されます。

調査をお願いする企業・事業所や団体の皆さまには、国が調査を委託した事業者から、調査票とインターネット回答用IDを、5月から順次郵送いたしますので、インターネット又は郵送にて、ご回答をお願いいたします（インターネット回答を推奨）。



詳しくは、以下の URL から経済構造実態調査のホームページをご覧ください。

<https://www.stat.go.jp/data/kkj/index.html>



【主な目的】

国民経済計算の精度向上 / より正確な景気判断や効果的な行政施策の立案 / 企業の経営判断

【調査対象・事項】

製造業及びサービス産業に属する一定規模以上の全ての法人企業（甲調査）、特定のサービス産業に属する企業及び事業所（乙調査）が対象です。

甲調査：（対象）個人経営の企業及び農林水産業、建設業等、一部の産業に属する企業を除く全ての産業分野の企業

（事項）経営組織／資本金／企業全体の売上及び費用の金額／主な事業の内容／事業活動の内容および事業活動別売上金額など

乙調査：（対象）特定のサービス業に属する無作為抽出により選定された企業・事業所

（事項）事業の形態／売上金額／会員数／年間契約件数／入場者数／従業員数など

♪ 編 集 後 記 ♪

JAPRS初夏号のご拝読誠にありがとうございます。

今年の大河ドラマ「どうする家康」なんですけどね、楽しくご覧になっている方もいると思うのですが、私はちょっと受け入れられないですねえ。原作・脚本の問題が大きいと思うのですが、家康が見たら怒ると思うんですよね。生きるか死ぬか、自分だけの問題だけでなく、多くの譜代の家臣や家族の命運を背負って生きているのですね。あまりに軽く描かれていて、真剣さが伝わってこないですね。コミカル過ぎて。あと、CGを使うのはいいんですけど、スタジオ撮影ばかりで、ダイナミックさが乏しいですね。NHKもう少し頑張ってもらいたいです。

あ、音楽は主題歌も挿入歌も中々良いのではと思います。

色々個人的な感想を言ってしまいましたが、家康ブームは嬉しい限りです。

Ryu1.N

季節感はどんどん“夏”と“冬”に凝縮されてしまっているように思えます。桜の品種も様々で色々な季節に咲くので更に混乱……。 “春”と“秋”に頑張ってもらいたいと個人的には思っています。

Pesonai

“体脂肪を減らす”というお茶をよく買いますが、ただ飲むだけではダメなんじゃないかな。簡単に痩せる方法はないのでしょうか……。

mm

***** 総 務 委 員 会 *****

委員長 中村 隆一（ミキサーズラボ）

委員 内藤 重利（事務局）

” 伊東 真奈美（ ” ）

【発行人】 会 長 高 田 英 男 【発 行】 2023年（令和5年）6月

【発行所】 一般社団法人 日本音楽スタジオ協会

〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目1番11号 モナーク大久保3F

TEL. 03-3200-3650 FAX. 03-3200-3660

<https://www.japrs.or.jp> E-mail: japrs@japrs.or.jp

【編 集】 総 務 委 員 会

【印刷所】 株式会社研恒社

The logo for JAPRS is displayed in a bold, orange, sans-serif font. To the right of the logo, a large, abstract graphic in a matching orange color features a series of concentric, slightly irregular circular lines that create a sense of depth and movement, resembling a stylized sound wave or a vinyl record's grooves. The graphic occupies the right half of the page, with its left edge curving towards the center.

JAPRS

Japan Association of Professional Recording Studios
<https://www.japrs.or.jp> E-mail: japrs@japrs.or.jp